

観光学会 平成 27 年度学会賞

## 受賞作と講評

教育・啓蒙著作賞

森重昌之『観光による地域社会の再生』

(現代図書 2014 年 3 月)

### < 講評 >

本書は、著者による博士論文『観光を通じた地域再生に寄与するオープン・プラットフォームの研究』（北海道大学、2010 年 12 月、264 ページ）の内容を加筆修正し、一般読者向けにまとめたものである。

著者は、過疎化により担い手が不足し、自律的な問題解決が困難となりつつある農山漁村にはおいては、「地域社会を持続するための自律的な問題解決力の回復」と定義される地域再生が求められていると指摘する。その実現のためには、ビジョンに基づいて地域社会が主導する観光の推進を通して、自律的であると同時に地域外の人びとがかかわることのできる「オープン・プラットフォーム」を新たな問題解決のシステムとして形成していく必要がある、と論じている。

内容は大きく 3 部で構成されている。第 1 部（第 1 章）では先行研究の検討、ならびに研究対象である現在の農山漁村地域の問題を指摘した上で、「オープン・プラットフォーム」の導入を提起する。第 2 部では、北海道内にある夕張市（第 2 章）、黒松内町（第 3 章）、標津町（第 4 章）、登別市（第 5 章）を取り上げ、観光による地域再生の実証分析を展開している。第 3 部（第 6 章）では、4 つの事例研究を踏まえて、地域社会再生に向けた「オープン・プラットフォーム」の形成に関する理論的なモデルを提示している。

本書は、数は限られるものの丹念な事例研究を踏まえて、「オープン・プラットフォーム」を通じた、観光による地域再生に関する理論的なモデルを導出し、多くの過疎化の進む他地域への応用の可能性を示したことは、本学会の教育・啓蒙著作賞にふさわしい貢献として高く評価される。また、観光系の学会での地域活性化・まちづくりの研究報告をみていくと、特定の地域を対象とした事例発表が多くなりがちであるなかで、著者による理論化の試みは、観光の学術研究の発展に新たな刺激を与えるものであることも付記しておきたい。